

委員会質疑

当初予算編成の重点

問 山崎委員 当初予算編成で重視した点は

答 副町長 人口減少対策、地方創生を最重要課題とし、物価高騰対策や町民生活の負担軽減、住民サービスの充実を重点に予算編成を行った。

子育て支援や高齢者支援、産業振興、地域交通や教育など、各分野の施策を進め、全施設が完成した複合庁舎「くずま〜る」の活用による地域活性化にも取り組み、町民が安心して暮らせるまちを目指した内容となっている。



全施設が完成した「くずま〜る」(①)と町産材が利用された「びっくテラス」(②)

町産材利用促進

問 深澤委員 町産材利用促進事業の拡充内容は



答 農林環境エネルギー課長 物価高騰や建築費上昇の影響に対応し、町産材利用促進と林業振興を図るため、補助単価をこれまでの1立方メートル当たり7万円から8万円に引き上げるとともに、これまで個人のみだった対象を法人にも追加した。

空き家対策

問 姉帯委員 空き家対策の進め方は

答 地域整備課長 空き家の実態調査を行い、件数や状況を把握するとともに、自治会への聞き取りや所有



空き家バンクに登録されている住宅

者への意向調査を行い活用や解体など今後の対策につなげていく。
また、管理不全空き家の増加も想定されることから、調査結果を基に全町の今後の空き家対策や支援のあり方について検討していく。

高齢者外出支援

問 藤岡委員 高齢者等外出支援事業の拡充内容は

答 健康福祉課長 高齢者や障がい者等の路線バスの利用が困難な方々へタクシー利用料の一部を助成。
これまで利用料に応じた段階的助成としていたが、タクシー料金改定による負担増への対応、外出機会の拡大や社会参加の促進を図るため、制度を見直し、1回1000円以上の利用について一律8割を助成する。

妊産婦支援事業

問 山岸委員 マタニティライフサポート事業の内容は

答 健康福祉課長 これま



幼児歯科健診の様子

5歳児健康診査

問 藤岡委員 5歳児健康診査の内容は

答 健康福祉課長 3歳児健診と就学時健診の間に実施し、身体や発育、言語、精神面などの発達状況を確認し専門職による相談や支援につなげる。新たに心理職が加わり年2回実施する予定。

道路改良事業

問 高宮委員 町道江刈農村センター線の整備内容は

答 地域整備課長 国道340号線から江刈中学校に向かう町道四日市中村線の小苗代橋の手前から江刈農村センターへ向かう道路であり、幅員が狭く、未舗装で暗く危険なため、道路の拡幅や線形改良を行う計画である。



町道江刈農村センター線

財政調整基金

問 柴田委員 財政調整基金の運用方針は

答 総務課長 財政調整基金は、財源不足への対応や災害などの緊急支出、年度間の財政調整のための基金である。

当初予算では繰入れの必要がないため計上していない。基金残高は財政力を考慮し標準財政規模の20%程度を目安に確保しており、今後もこの考え方を基本として財政運営を行っていく。

地区センター等の指定管理料

問 深澤委員 地区センター指定管理料等の見直しは

答 まなび交流課長 燃料費などの価格高騰により維持管理費が増加しているため、指定管理料を増額する。均等割分3万円に施設面積に応じて面積割分を加算。これまでと比較し2万3000円〜4万5000円円の増額となる。
自治公民館については年額2万円を4万4000円に増額する。



6年度完成の山岸自治会館

有害鳥獣対策

問 姉帯委員 全国的に被害が増加している有害鳥獣への対策内容は

答 農林環境エネルギー課長 クマやシカなどの捕獲に対する報奨金を交付し被害防止を図っているが、近年クマの出没や捕獲数が増加しており、危険性や負担を考慮し報奨金を増額する。
また、電気柵設置に対する補助金は6年度から増額しており、シカやイノシシの駆除についても猟友会や関係者と連携・情報収集を行いながら、対策強化に努める。



畑に出没したイノシシ(小屋瀬)

ワイン原料確保

問 山崎委員 特産品原料確保対策事業の目的は

答 農林環境エネルギー課長 町の特産品であるワインの原料となる山ぶどう等の安定確保を図るため(株)岩手くずまきワインが購入した原料購入費の一部を支援するもの。
生産者の高齢化や資材高騰、気候変動により原料確保が不安定となっていることから、生産者の栽培継続と原料供給の安定を図り、町の基幹産業であるワイン産業を将来にわたり維持することを目的としている。



山ぶどう園場(鍋倉地区)